

井崎市左衛門氏採集の福井県産ヤガ科の記録

杉 繁 郎

福井県小浜市の井崎市左衛門氏は、1951年に同県各地で多量の蛾を採集されたが、そのうちの一部は現在東京の農業技術研究所病理昆虫部に保管されており、私は最近その標本を調べることができた。この中にはかなり興味深い種を含んでいるので、今回その主なものをここに記録しておくことにする。貴重な標本を採集され、かつその産地等について直接懇切な御注意を頂いた井崎市左衛門氏に敬意を表するとともに、農業技術研究所の長谷川仁、服部伊楚子両技官の御好意に対しても厚くお礼申し上げます。

ここに記録する標本は1個を除きすべて1951年に井崎氏が採集されたものばかりで、その産地は次のとおりである。1)

Hatogayu 大野市鳩が湯
Onyu 小浜市遠敷
Kobunato 吉田郡上志比村小舟渡

これらの中には若干の日本及び本州未記録種を含んでいる。2)

Cryphiinae キノコヨトウ亜科

Cryphia mediofusca Sugi スジキノコヨトウ

Hatogayu: ♂, 30. viii

Cryphia sp. 3) マダラキノコヨトウ(新称)

Hatogayu: ♀, 10. viii

以上の2種については別に私の記載(*Tinea*, 5: 28, 6, 1959)に詳しく書いておいたのでここでは繰返さない。

Amphipyriinae カラスヨトウ亜科

Apames striata Haruta スジアカヨトウ

Hatogayu: ♀, 3. viii

本種は北海道と本州中部山地(群馬・長野・山梨・岐阜の諸県)の標本によつて最近記載され

※ 東京都大田区入新井4ノ112

- 1) 産地の概要については井崎、昆虫採集地案内(近畿地方)、福井地方、pp. 40-42, 京都昆虫同好会、1958を見られたい。
- 2) ただし井上、杉、日本産蝶蛾総目録, 5には一応それらの分布を加えてある。
- 3) 本種に対して私は新名を予定していたが、最近Boursin氏からの書信で、同氏が近く命名予定であることを知つたので、私の新名を撤回することにした。氏の記載はすでに投稿中なので、近い将来上記の名が使用できるはずである。

(春田、杉, *Tinea*, 4:271, 1958)、さらに奈良県大台ガ原からも記録された(緒方、原色日本蛾類図鑑, 下: 103, 1958)かいて、福井県からは新記録である。

Dexiadena arctides Staudinegr ヒメシマヨトウ

Hatogayu: ♂, 30. viii

同属の *D. arcta* Leder シマヨトウは各地に普通でよく知られているが、本種は古く日本から記録がありながら確実に同定された標本を私はこれまで見たことがなかった。一方 *arcta* は大きさと前翅の色調にかなりの変化があり一見 *arctides* のように小型で暗色おびた個体も見出されるが、私の調べた限りではこの 1♂以外に真の *arctides* は発見されていない。標本が 1個きりで、かなり傷んでいるので、*arcta* との確実は区別点はこゝに指適しにくいなお両種の♂交尾器は Filipjev (Ann. Mus. zool. Acad. Sci. USSR, 28: 247, pl. 15, f. 27—28, 1927) によつて図示されているが、私の材料と *arcta* の方と一致しない点があるので、詳細については別の機会に記したい。

Rhizedra lutosa griseata Warren ヨシトウ

Hatogayu: ♀, 27. ix

この大型のかいてはなかなか採りにくい種で、おそらく湿地などに局地的に分布するものと思われる(近縁の *Archanara* の各種もめつたととれない)、私の知っている本州の産地は山形県の酒田市(白畑孝太郎氏採集)と新潟県鹿瀬(鈴木茂久氏採集)だけで、特に酒田市ではしばしば採集されている。データは次のとおり。

Sakata, Yamagata Pref. ♂, 19. x. 1951; ♂, 12. x. 1954; ♂, 4. x. 1956 (K. Shirahata).

Kanose Pref., ♀, 8. x. 1955; ♂, 30. ix. 1956 (S. Suzuki). 鈴木氏所蔵。

Euplexia sp. ウイヌ^スロアカガネヨトウ(新称)

Hatogayu: ♂, 21. vii

本種はたぶん新種で、私はこれ以外に本種に当る標本を見たことがない。しかし残念ながらこの標本はあまり新鮮でないので、命名は差控えておく。

♂. 触角は微毛状、前翅はうすい灰褐色をおびて見え、内横線はかなり外方に傾斜して後縁に達し、灰白色、外横線は前半強く外方へふくらみ、灰白色で内方を暗色で縁どられる。環、腎状紋とも灰白色で中心部に暗色鱗片をもち顕著、後翅はかなりうすい灰黄色で、横線は暗色、開長; 20mm. ♂交尾器は *E. bella* Butler と比較的よく似ている。

Jambia transversa Moore アミメヒメヨトウ(新称)

Hatogayu: 2♂♂, 30. viii; ♂, 31. viii; ♂, 29. ix.

Ouyû: 2♂♂, 18. vi; 2♂♂, 7. ix

本種は古くから日本の記録があるが、詳しい分布は不明で、私は実物を見たことがなかった。私の記載した *J. laponica* Sugi よりもずっと小型で区別は容易である。福井県地方ではかなりふつうのようである。

Zenobia retusa curvata Butler ヤナギキリカ*

Hatogayu: 1♂1♀. 3. vii; ♂, 2. viii.

Onyu; ♂, 8. vii

Calliopistria clava Leech ツマナミツマキリヨトウ

Onyu: ♀, 27. v.

この属中稀な種で暖地でとれ、表日本では伊豆半島、東京高尾山あたりまで分布している。裏日本からは最初の記録である。

Nycteolinae キノカワガ亜科

Parhylophila celsiana Staudinger オレクギリンガ

Hatogayu: ♂, 31. vii.

きわめて稀な種で、本州中部ではごく僅かしかとれていない。私の手許に次の標本があるので併せて記録する。

Iwana-dome, Shimajima Valley, Nagano Pref. (島々谷), ♀, 20. viii
1956 (K. Hori)。

なお東北地方では盛岡(岡野、岩手生活博物館時報、(1): 28, 1951)でとれている。

Acontiinae コヤガ亜科

Porhyrinia ragusana Freyer ツマテンコヤガ

Hatogayu; ♀, 31. viii

本種は最近日本(九州彦山)から記録されたばかりで(黒子、彦山昆虫目録, 1; 73, 1957), 本州からはこれが最初の記録である。ただし私は伊豆半島大滝温泉でとれた標本(森下強三氏採集)をもっているのと一緒に記録しておく。

Odaru, Nashimoto, S. Izu, ♀, 19. ix. 1957 (K. Morishita).

Ozarba brunnea Leech ウスベニホシコヤガ

[Onyu]: ♂, 採集日不明4)

日本未記録、従来は台湾・中国・印度北部から知られていた。

Catocalinae シタバ亜科

Ectogonitis pryeri Leech ブライヤキリバ

Hatogayu; ♀, 31. viii

本種の分布については私も前にかいておいたことがある(蛾類同志会通信, (14/15): 127, 1958). 福井県からは最初の記録で、本州の既知産地は新潟、福井、岐阜、三重、京都、和歌山の6府県となった。

4) この標本にはラベルがなかつたが、他の標本と違うピンで差してあつたので、井崎氏にお尋ねしたところ、昭和13年〔1938〕ごろ小浜市内下根来(魁)が谷(当時遠敷郡遠敷村下根来)で採集したものとお答え頂いた。現在ではピンをとりかえ、ラベルをつけた。

Plecoptera insignita Wileman アトヘリヒトホシアツバ

Hatogayu: ♂, 30. viii; ♂, 31. viii,

暖地ではわりによくとれる小さな蛾で、♂の触角は基方に長い櫛歯をもち毛で被われている。日本では古くから図示され(長野, 日本鱗翅類汎論: 241, pl. 11, f. 12, 1905; 河田, 日本昆虫図鑑・旧版: 1153, f. 2276, 1932) ていたが、正しい学名が最近まで知られなかつたものである。(井上・杉, 日本産蝶蛾総目録, 5: 593, 1958 参照)、私は、British Museum の D. S. Fletcher 氏に標本を送り、同定してもらつた。

Rivula curvifera Walker マエシロンアツバ(改称)(=マエシロコヤガ)

Onyu: 1 ex., 7. ix

暖地では稀でなく、表日本では伊豆半島まで分布している。*Curvifera* という蛾は、Leech (Trans. ent. Soc. Lond., 1900: 158) 以来日本ではその正体が知られず、*Naranga* として取扱われて来た(松村, 日本昆虫総目録, 1: 86, 1905; 井上・杉, 日本産蝶蛾総目録, 5: 549, 1958)。私は同じく Fletcher 氏の同定によつて本種が *curvifera* であることを知り得たので、学名及び和名を上のように改めておく。

Bleptina wilemani Sugi クロオビアツバ

Kobunato: ♂, 3. vii

本種が新潟県でとれたことは私が前に記録したが(類同志会通信, (14/15): 136, 1958), ここに福井県を新産地としてあげておく。

Eerminiinae クルマアツバ亜科

Zanclognatha nigrobasalis Yamamoto et Sugi ネグロアツバ

Hatogayu: ♂, 3. viii; ♂, 30. viii. Onyu: ♀, 29. vi. 産地不明: ♂

原産地は兵庫県柏原(山本・杉, *Tinea*, 2: 109, 1955)で、ここに第2の産地を記録しておく。本種は中部地方にも産するらしく、私は別に愛知県新城市(菅貞義氏採集)及び静岡市(永井洋三氏採集)の標本を見ているので書とめておきたい。

Sinsiro, Aichi Pref., ♂, 5/2 [=2. v](S. Kwan). 菅氏所蔵。

Shizuoka City, lex. 13. vi. 1957(Y. Nagai). 永井氏所蔵

後記 ヤガ類は似たものが多いので同定が困難であり、昭和27年に博物館の標本を作つた当時には、和文に依る亜科迄分類した文献が無く、アツバ以外は順序が全然不同であり、一部は東京都西ヶ原の農業技術研究所で同定してもらつた。その後、杉繁郎氏が残りを調べて下さつて、昨年8月京都府立大学内京都昆虫同好会発行の「あきつ」に発表せられたので、杉氏の御許しを得て転載する事にした。

尚、ヤガについては杉先生の御援助で目録を纏めて発表したいと思つている。

記して杉先生の御厚意を感謝します。

昭和35年3月9日記す。

井崎市左衛門